



小島友実の あの馬の STORY



馬房でくつろぐプリフロオールイン。実は前髪がパツッ!

プリフロオールイン

今月の主役は今年の高知3冠を圧倒的な強さで制したプリフロオールイン。3冠馬に会えるチャンスはそうないですから、高知に行き取材してきました!

プリフロオールインは2022年北海道サマーセール出身馬。打越勇児調教師に当時の印象から振り返り頂きました。

「少し蹄が小さいのが気になるかもしれませんが、すごく良い馬だなと感じましたね」

昨年8月27日のデビュー戦では逃げた馬には厳しい展開となつて着に負け、しまいますが、2戦目のエリウス特別で初勝利。その後は勝利を重ね、エリウスター高知と金の鞍賞も勝つて重賞2連勝。5戦4勝という成績で、3歳戦を終えて注目度が高まっています。

「2歳の頃は体質が弱く、デビュー時期をずらしたという経緯がありました。注射が嫌いでなかなか治療ができなかったんです。でもその分、時間をかけられて、3歳の頃に無理をしなかった事が良い方向に出ました。エリウスターを勝つた後の口取りでも息が戻っていた。心肺機能が相当高いと感じましたね」

当然、陣営の3冠への意識は高くなく、いままでながら、3歳の前半は試練が待っていました。

「4月の仙台屋桧特別の前に釘が当たって、右前脚の歩様に違和感が出て治療しました。状態としてはそれまで一番良くなかった。それでも勝てるだろうと思って仙台屋桧特別に送り出して、着馬とは0.2秒差で勝利。2歳時のレースと比べると着差が開かなかったから、他陣営からはプリフロの底が見えたと言われまして。でも自分としては、あの状態

で勝つたのだから、次の黒潮皇月賞に向けて自信を持ちました」

元々、蹄に弱い面があるというプリフロオールイン。実はこの仙台屋桧特別からは蹄への負担を減らすため、釘を使わない接着装蹄に変更し、出走していきま

す。そして、黒潮皇月賞に向けて師が自信を深めたのが調教の動きでした。

「皇月賞の前日シムンデージー(打越師)が管理する3歳馬を含めた3頭で追い切りを行ったんです。その時、プリフロオールインの動きが良すぎて、シムンデージーはプリフロに勝てないと感じて、だからシムンデージーは高知3冠ではなく、他地区路線へ向かっています。その後、シムンデージーはジャンタートラシックで5着に入るまで活躍。2頭について分岐点でした」

師の手応え通り、黒潮皇月賞は快勝。目指すは高知3冠馬の座となります。

「今までは自分は高知優勝を勝つた経験がないので、レース前は一番緊張しました。それに初の1000mで、血統評論家からは不安視されてしまいましたからね。でも、強い内容で勝つてくれました。プレッシャーが凄かったですね」

2戦目から手綱を取る宮川実騎手にしても高知優勝は初タイトル。今回の高知取材で宮川騎手にも話を伺えたのですが、「感謝の気持ちがいっぱいでした。会心のレースでした。この馬の能力を改めて実感しましたと話していました」。

3冠目の黒潮菊花賞は不利とされる大外8枠12番。しかもスタート後に他馬に迫られる厳しい展開。それでも最後は

後続を馬身突き放す完勝。打越調教師は「改めて、この馬の強さを再認識しました。3冠を取らせて頂いて本当に嬉しかったです。同時に、ホッとしました」と振り返っていました。

今回の取材ではプリフロオールインの普段の様子も見られました。デビュー前から担当する川島拳斗厩務員によると「普段は大人しいです。3歳になってからは飼料食いが安定しています」とのこと。レースではメンツをしているプリフロオールイン。実は前髪パツッ君なのです(可愛いですよね)。洗い場など様子を見てくれる無駄な事は一切しません。さすが3冠馬。頭の良さを感じました。

3冠を闘つた後は休養を採り、11月7日には初めて他地区へ遠征。園田競馬場で行われた1400mの楠賞に出走しましたが10着。打越師は「レースではエリウスが使えていなかったようです。砂をかぶつてもレースが得意な感じがあり、それは収穫でした。これを糧に頑張っていきたいですね」と話していました。

気になると距離適性ですが楠賞の前、宮川騎手が「25年間、騎手をやっていますが、高知の1000mで逃げて直線まで伸びる感じが味わった事がない。この馬に乗って一番素晴らしいと思うのは心臓の強さです」と話していた事がとても印象に残っています。

なお、楠賞後の馬体確認で右前脚の蹄に熱感が見られ、治療に専念するとの事。プリフロオールインはまだ3歳ですから、巻き返しに期待しましょう。

(取材：11月5日&7日)

profile

競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近では地方競馬場の馬場取材も行っている。